



福智、ヤマの記憶。



商店街

↑麻生・貝島と並び「筑豊の御三家」と称された安川敬一郎創業の明治炭業。赤池炭鉱は明治炭業の中核として良質な赤池炭を出炭した。かつて明治専門学校(現九州工業大学)もここにあった。筑豊一の納屋頭・松岡陸平もいた。24時間フル稼働する鉱山は「眠らないヤマ」ともいわれた。今では、整然と並んだ炭鉱住宅の面影もなく、写真右のボタ山は中央公民館などの公共施設や新興住宅地に置き換わっている。

↓昭和44年11月11日、多くの住民が見守るなか、三菱方城炭鉱の煙突が解体された。筑豊では閉山が相次ぎ、ついに最後まで生き残った赤レンガの大煙突も姿を消す。この町の人口も半減し、再興をかけたまちづくりに着手した。

→石炭の輸送拠点だった金田には筑豊屈指の商店街が形成された。大正11年には映画館「大和館」が開場。「びっくり市」や「カラクタ市」の発祥の地でもある。その後、エネルギー革命の波にのまれ、芝居小屋やクラブ、カフェなど、数々の店舗が姿を消した。



大煙突

試される地力

疲弊から立ち上がり、再生した町の底力が、いま問われる。

閉山後に町が倒産

―旧3町すべてが財政再建団体に転落―
 方城大非常の4か月前に勃発した第一次世界大戦は「筑豊に5円以下の貨幣はない」といわれるほどの好景気を生み出した。その後、石炭産出で筑豊の王座はゆるがず、全国出炭高の半数以上を占めていきます。大非常にうちひしがれた方城も大煙突から白煙を上げ、日本経済発展の原動力として不死鳥のようによみがえります。福智町の旧3町は、国策の石炭産業で炭鉱の熱気と活気に満ちあふれました。

しかし、昭和40年代後半からエネルギー源が石油へと転換し、旧3町は大打撃を受けます。基幹産業の消滅で人口の半数以上

が町を後にし、労働者人口の大半が転出。多くの失業者と鉱害地が残りました。8割以上を占めた町の財源が、国や県に依存した交付金や補助金、そして借金へと逆転し、閉山の影響は財政構造にとどまらず、人心の疲弊にまでおよびます。旧3町は鉱害地の復旧や失業対策、企業誘致などの基盤整備を進め、やがて厳しい財政状況へと追い込まれていきました。

脱産炭地にあえぐ町の政策は、事業と借金を重ねるといふ悪循環を招き、その財政はついに破綻。福智町を構成する旧町すべてがパトンをつなぐうちに、昭和50年代後半から次々と町の倒産を意味する準用財政再建団体に転落していきました。現在、北海道夕張市が財政再建に取り組んでいます。旧産炭地の宿命のような財政の立て直しをすでに福智町は経験しているのです。

合併再建の山場

―いまなお直面する財政危機―
 しかし、旧3町が閉山後の事業展開で倒産したように、財政再建後に反動が現れます。再建中に抑えられていた行政需要への対応で借金が増加。旧3町は自治体最大の行革といわれる「市町村合併」を選択します。しかし、新町・福智町では借金も財政

規模も膨れあがったまま、いまなお財政危機に直面しています。

国策支援に終止符

―どうするか最後の2億6千万円―
 昭和36年に始まった産炭地振興策で全国の産炭地に投入された予算は、10項目で約3千106億円。失業対策費などを含めるとさらに数千億円が加わるといえます。これまで産炭地は国の支援に依存してきましたが、今年、政府は産炭地地域活性化基金の取り崩しを認めるとともに、およそ半世紀続けてきた旧産炭地振興策を完全に打ち切ることを決めました。

筑豊の15市町村には、取り崩した基金の

うち約31億5千万円が配分され、福智町には約2億6千万円が申請により助成される見込みです。この産炭地への最後の助成金で、いかに有効な地域振興策を導入できるかが、いま町に問われています。

国と地方の債務額は、前年度末でおよそ775兆円。自治体の税収や人口を支えてきた企業が海外へと移行する現在の状況は、かつての福智町と重なります。大非常や町の倒産から立ち上がったように、福智町には再生する底力がきつとあるはず。国策に左右されたのは事実ですが、全国の縮図のような福智町が、過去に得た教訓とノウハウを生かし、自立した真の新しい町をつくり上げていく取り組みは、以前にも増して注目を集めています。

真の新町に向けて 再建力を福智で


旧金田町が昭和56年度から7年間、旧方城町が昭和57年度から10年間、そして旧赤池町が平成3年度から10年間、財政再建に取り組み、いずれも計画より早く脱却を果たしました。20年近くも財政再建期間を引き継ぐ形となった福智町には、今なお全国から視察が相次いでいます。町の前年度末の借金額は普通会計だけでも約260億円。過去の教訓を生かした再建策と成果が、この町に求められています。



旧3町が財政再建完了後に、数値の推移と今後の方針をまとめた「財政再建のあゆみ」

インタビュー
 町の行財政改革を主要施策に掲げる

浦田 弘二 町長



父が炭鉱で働いていましたし、ヤマは常に身近な存在でした。閉山、再建、合併と、今も時代の局面をわかえています。歴史をかみしめ、行財政改革を推進しながら、歴史を誇れるまちづくりを進めたいと思います。基金の助成分は、将来に夢がもてるような事業に活用したいと考えています。